

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	洛西愛育園		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 8日		2026年 1月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49名 (48家族)	(回答者数) 44名 (44家族)
○従業者評価実施期間	2026年 2月 3日		2026年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 15名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月17日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どものテンポ、活動量、特性に応じた支援と環境の設定	・グループ療育を行っているがグループ分けは活動のテンポ、活動量を基準として、その子どもに合わせた活動を展開できるようにしている(4月当初の2週間を観察期間として子どもたちの様子を見てグループ分けを行っている)。 ・子どもが自分で分かって行動できる環境の設定。 ・個々の子どもに応じたコミュニケーションスキル獲得の支援。	・子どもをアセスメントするスキルの向上のためのケース検討会議を増やすことと支援力向上のための研修企画や外部研修への参加。
2	・保護者支援・対応	・年間5回のグループ懇談会を開催し保護者同士の情報交換、グループの子どもに応じた勉強会や教材作りと個別懇談(年2回)の実施。個別懇談は相談事があれば随時行っている。 ・保護者会を組織し学習会、交流企画等の取り組みを行っている。 ・おやじの会として父親にプール設置や片付けに協力して頂き、その後、懇談を行い、父親の交流の場としている。 ・就学を迎える保護者に対し、相談や学校見学の同行等の対応をしている。 ・保護者だけでなく誰もが気軽に参加でき、話し合える会(おしゃべりサロン)を設定し卒園児等の話が聞ける場を設定している。	・事故だけでなく、保護者と共有しなければならないことに迅速な報告をするようにしていく。
3	・保育士、指導員、作業療法士、言語聴覚士、看護師等の職種を配置しており、多職種でチームを組んで多面的に子どもを見ることができる。	・子どものニーズにより、それぞれの職種の意見を参考に支援が行うことができる。 ・グループを越えて子どものアセスメントを行うことができ、各々の職種の専門性を学び合うことができる。	・各々の専門性を高めると共に、様々な角度から子どもをアセスメントしていけるようにする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者の就労保障に課題がある。	・特にフルタイムで就労されている家庭の利用がしにくい。個別の事情で営業時間内で預かる場合はあるが、多くの家庭が希望した場合に現状では対応が難しい。	・施設としてできること、制度として対応できることはないか等、今後の具体的対応を検討していく。
2	・家族(きょうだい)への支援	・保護者会活動や懇談会など保護者同士の交流の場はある。きょうだいに関しての相談は行っている。きょうだい同士の交流等の取り組みは行っていない。相談は応じている。 ・ファミリーデイ(年2回家族参加の療育)にはきょうだいも参加している。 ・サポーターズクラブ(後援会)の夏祭りやバーベキュー大会に年長児を招待し、きょうだいも参加し楽しんでいる。	・きょうだいに対しどのような支援が必要なのか検討していく。
3	・保育所や幼稚園などほかの子どもとの交流	・隣接する京都保育福祉専門学院内の一室で同じ法人の保育園が保育を行っていた時には交流もあったが、現在は学院内での保育を行っていないために他の子どもとの交流は行っていない。	・単独通園施設として、日常的に交流等をするのは難しいが、施設としてできることを検討する。 ・子どもが過ごせる施設や場所の情報提供を行う。